

1	名古屋
---	-----

守山小学校

トダゲンキ
戸田元輝

分科会番号	1
-------	---

分科会名	国語教育（作文その他）
------	-------------

自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができる児童の育成（小5年）

1 何のために

現代社会では、日々多くの情報があふれ、SNSで気軽に発信ができ、AI技術が飛躍的な進歩を遂げている。このような価値観が多様化した社会で、子どもたちが、他者と良好な関係を築き、自分らしく生き抜くためには、自分の考えを「伝える力」が大切になる。私が考える「伝える力」とは、「自分の考えを整理して分かりやすく伝える力」である。



本学級の5年生（30人）には、友達に優しく接することができる児童が多く、授業でも、友達を理解しようとしっかり友達の考えを聞く姿が見られる。一方で、話し合う学習場面では、自分の考えがまとまっていないまま話そうとする児童が多く、発表する場面では、下を向き、聞き取りづらい声の大きさを話すことが見受けられる。

そこで、学級の児童の意識を知りたいと考え、「相手に自分の考えを整理して分かりやすく伝えることはできますか？」というアンケートを行った。その結果、「できない」「どちらかといえばできない」という回答が、30人中14人と半数を占めた。また、その理由として「自分が何を伝えたいのかははっきりしていない」という記述が複数見られた。これらの実態から、「考えを整理する」「分かりやすく伝える」ことを身に付けさせる学習が必要だと考えた。そこで、本学級の児童たちに「自分の考えを整理して分かりやすく伝える力」を身に付けるために次の三つの力を身に付けさせる必要を感じた。

1つ目は、「自分の考えを明確にする力」で、自分の頭の中にある様々な考えを検討し、何が伝えるべき考えなのか明確にすることである。2つ目は、「分かりやすく伝える力」で、明確にした考えを相手に伝えるための表現の仕方や工夫を考えることである。3つ目は、「自分の『伝える力』を把握する力」で、自分の「伝える力」を振り返り、的確に把握することである。

2 実践計画

それぞれの単元で三つの力を身に付けるために、次のような手だてを打つことで、「自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができる児童」に迫りたいと考えた。〔資料1〕

↓ 子どもの習熟度に合わせたミニ実践	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「伝える力」が低い</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">① 自分の考えを明確にする力＝思考ツールの活用 思考ツールを活用することにより、自分の考えを検討し、明確にする。その中で、自分の考えをよくする必要性やよくなったことを実感できる。</div>	
	↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第1次実践（スピーチ） 単元：「『町じまん』すいせん会をしよう」</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">② 分かりやすく伝える力＝表現方法の工夫を考える 児童たち自身で相手に分かりやすく伝えるための表現の仕方や工夫を考えるようにする。また、集約したものを「ヒントカード」として作成する。それらを提示して意識して話すことで、相手に分かりやすく伝えることができるようにする。</div>
	↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第2次実践（ディベート） 単元：「AIとのくらし」</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">③ 自分の「伝える力」を把握する力＝めあての再設定 話す練習の様子を撮影した動画を参考に、評価の観点を示した評価チェックシートを活用したり、友達と助言し合ったりして、めあてを再設定する。自分の話す姿を客観的に評価することで、目標を見直すことができる。</div>
	↓	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「伝える力」をアップグレード</div>	

〔資料1〕実践の構想

3 実践の様子

(1) ミニ実践1「わたしは木」(4月)

発表の場面で、下を向き、聞き取りづらい声の大きさと話す姿が多く見られるのは、発表の場に慣れていないことが原因だと考え、朝学習の時間にスピーチに取り組んだ。しかし、継続しても児童たちの姿に変化はなく、逆に発表することに対しての意欲が下がっていく様子も見られた。そこで、「伝える力」を身に付けるうえでの源となる「意欲を高める」ためのミニ実践を行うことにした。保護者にも「伝える力」の大切さや児童の変化を感じてもらいたいと考え、4月の授業参観に単元「わたしは木」の学習を行った。

① 目標

「伝える力」を高めたいという思いをもつことができる。

② 実践の様子

まず、「相手に伝えるために大切なことは何か」を問い、学習への目的意識をもたせた。そして、動きだけでお題を伝える「ジェスチャーゲーム」と、紙にかかれた図形を代表者が聞き手に伝える「図形伝達ゲーム」に取り組んだ。児童たちは、動きや言葉を使って、伝えることの難しさを感じながらも、楽しみながら取り組んでいた。〔資料2〕授業の振り



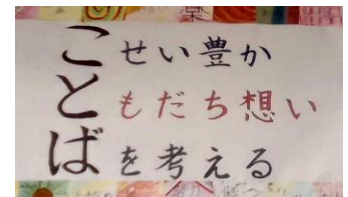
〔資料2 ジェスチャーゲームをする様子〕

〔資料2 ジェスチャーゲームをする様子〕
返りでは、表現方法を工夫する大切さを感じたり、自己評価をしたりすることにより、今後の目標を記述したりする姿が見られ、伝えることへの意識の高まりが伝わってきた。〔資料3〕

- ・ 動きだけでは伝えづらいし、言葉だけでも伝わりづらかったので、動きと言葉を組み合わせるとスムーズに伝わると思った。
- ・ うまく伝えられなかったけど、伝わったときはうれしかったので、いろいろな人に言葉で伝えられるようになりたい。

〔資料3 振り返りの記述〕

授業参観の一週間後、学級目標を決めるための授業を行った。児童たちが意見を出し合う中で、「言葉で気持ちを伝えたい」という発言もあった。様々な候補の中から、5年1組の学級目標は、「ことば」に決まった。伝えることへの意識の高まりを感じた。〔資料4〕



〔資料4 5年1組 学級目標〕

③ 結果と考察 (成果…○、課題…●)

- 楽しみながら意欲的に取り組み、「伝える力」を高めたいという思いをもつことができた。
- 動きと言葉を組み合わせることなど分かりやすく伝える工夫を考えることができた。

(2) 1次実践『『町じまん』すいせん会をしよう』(6月)〈6時間完了〉

① 目標

伝えたいもののよさが伝わるように表現方法を工夫して話すことができる。

② 実践の様子

児童たちで誰に何のためにすいせん会をするのか話し合いをした。話し合いでは、「すいせん会をするのだから、学級の友達によさを伝えるのがよいと思う」や「守山区のお薦めの場所にすれば、みんなも行ってみたいことができる」という意見に賛同の声が上がった。そして、すいせん会のテーマは、「守山じまん」となった。

手立て① 自分の考えを明確にするための「構成シート」の活用

伝えたいことを明確にするため、思考ツールとして、構成シートを活用した。構成シートには、伝えたいことを書き込み、「しせつ」「いきもの」といった様々な観点から推薦する場所のよさを整理していった。一番伝えたい考えに印を付けたり、発表で付け加えたい言葉を書き込んだりして、自分なりに工夫を加える姿も見られた。〔資料5〕

それは... ↑ ↓ いまの人に伝えるリゆう

観点	具体例	順序	具体例	順序
しせつ	キャンプ場、BBQ場、ピクニックレストラン	②	子供えけゆうく、あかあしんけゆうく、さんぽまち	②
いきもの	ワサガメ	③	マメタン	
町とつながり	いろいろなところからいろいろな世代の人がくる	①		

〔資料5 自分なりに工夫を加えた構成シート〕

手立て② 分かりやすく伝えるための「ヒントカード」の活用

明確になった考えを分かりやすく伝える方法を検討するため、朝学習の時間に取り組んでいるスピーチを想起させ、相手に伝えるために大切だと思うことを書いたカードを提出させた。提出されたカードの内容を見て、同じ内容には下線を引いたり、同じ観点には印を付けたりしながら集約した。話合いの結果、表現方法に関わる「①資料の提示②話し方の工夫③相手の反応を見ながら」の三つの観点に分け、それぞれのヒントカードを作成し、提示した。〔資料6〕多くの児童が構成シートとヒントカードを活用して、一番伝えたいことを発表するときに、どの方法を選ぶと分かりやすく伝えることができるかを検討していた。

- ① 資料の提示
 - ・指を指す
 - ・タイミング
 - ・必要なものだけ
- ② 話し方の工夫
 - ・間をあける
 - ・身振り手振り
 - ・表情を変える
- ③ 相手の反応を見ながら
 - ・みんなの目を見て話す
 - ・相手の表情を見て伝わっているか考える

〔資料6 3つの観点に分けたヒントカード〕

手立て③ 「伝える力」の把握・めあての再設定

グループで取り組んだ発表練習の動画を見たり、友達と助言し合ったりしたあと、評価チェックシートを活用し、自分のスピーチの姿を客観的に評価した。チェック項目は「①資料の提示②話し方の工夫③相手の反応を見ながら④話の構成⑤言葉選び」の5点とした。①②③は児童たちが作成したヒントカードの内容の出来映えをチェックできるようにした。④⑤には内容面の評価を加えた。児童は、自分でチェックした評価チェックシートをもとに、すいせん会に向けてのめあてを再設定した。すると、最初に設定しためあてからより具体的な内容のめあてに変更する様子が見られた。〔資料7〕

○発表のめあて

自分が伝えたいことを、まろりと伝える。

チェック項目	◎○△	課題
① 資料の提示	◎	
② 話し方の工夫 (間、ジェスチャーなど)	○	言葉と言葉の間をあける
③ 相手の反応を見ながら	△	相手と目を合わせたり聞かせる
④ 話の構成 (始め方や話す順序など)	◎	
⑤ 言葉選び (伝えたいことを伝えるためのキーワード)	○	行った時のエピソードや 戦い

○めあて

写真を効果的に使って、相手の反応を見て伝える。

〔資料7 評価チェックシートとめあての変更〕

「守山じまん」すいせん会では、明確になった内容に自信をもち、堂々と発表していた。聞き手の反応を見ながら問い掛けたり、効果的に資料を提示したりして聞き手を引きつける姿が見られた。〔資料8〕



〔資料8 自信をもって発表する様子〕

③ 結果と考察（成果…○、課題…●）

- 構成シートを活用することで自分の考えを検討し、伝えたいことを明確にしてすいせん会の準備をすることができた。
- ヒントカードを活用することで、意識して間を取ったり、資料提示を工夫したりして、分かりやすく伝える方法を選んで発表することができた。
- 動画で客観的に自分の発表を見て、友達の助言を確認しながら評価チェックシートで振り返ることで、適切に自己評価をすることができた。
- 評価チェックシートを見返すことにより、自分の課題を明確にして、めあてを再設定することができた。
- 構成シートの形式が複雑だと感じて、自分の考えを明確にできていない児童もいたので、個に応じた思考ツールを選択できる必要がある。

(3) ミニ実践2「話し合い」（9月）

国語科「知りたいことを決めて、話を聞こう」（9月）で行った話し合い活動のあとに、朝学習の時間で話し合いをしたいという声が多く上がった。そこで、朝の学習に話し合いしたいテーマを選んで、テーマに沿った話し合いをする活動を行った。

① 目標

ディベートに向けて話し方・聞き方のポイントを考えることができる。

② 実践の様子

多くの児童から、話し合いしたいテーマがあるという声上がり、テーマを募集したところ「海外に行くならどこの国」や「幸せを感じる時」など多くのトークテーマが集まった。その中から、日替わりでテーマを替えながら、話し合いを行った。楽しみながら話し合いに取り組む姿が多く見られた。〔資料9〕話し合いをする中で、資料を使って自分の考えを伝えたいという意見が出たので、テーマを決めた後に、資料を集めたり、考えを整理したりする準備の時間を設定した。また、第2次実践に向けて、話し合いの中で話すとき、聞くときに大切だと感じたことをカードに書き込み、提出していくようにした。〔資料10〕そのカードを提示し、スピーチで学んだことと比べながら、より相手を意識しながら話し合いに取り組む様子が見られた。話し合いの後には、振り返りを行い、何がよかったのか、課題は何かを考え、気付いたことをカードに書き込み、提出した。〔資料11〕



〔資料9 楽しみながら話し合いに取り組む様子〕

<ul style="list-style-type: none"> ・相手の年齢などによって話すスピード、内容を変える。 ・相手の反応に合わせて話す。 ・大切ところはゆっくりと話す。 ・途中で分かった?などと聞く。 	<p>(振り返り)</p> <p>タブレットを見ないようにしても、つつい見てしまったので、次は、しっかりと相手の目を見て聞いたり話したりしたい。内容が尽きちゃうので、もっと内容を集めたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・うなづく。 ・相手の目を見る。 ・聞くときは聞く、話すときは話す。 ・笑顔で聞く。 	

〔資料10 大切だと感じたことを書いたカード〕

③ 結果と考察（成果…○、課題…●）

- スピーチと話し合いの違いを考え、より相手を意識して、話し合いの中でどうすれば自分の考えを分かりやすく伝えることができるか考えながら話し合いに取り組む姿が見られた。

(4) 2次実践「AIとの暮らし」(10月)〈6時間完了〉

① 目標

伝えたいことを明確にするための方法と表現方法を考え、分かりやすく伝えることができる。

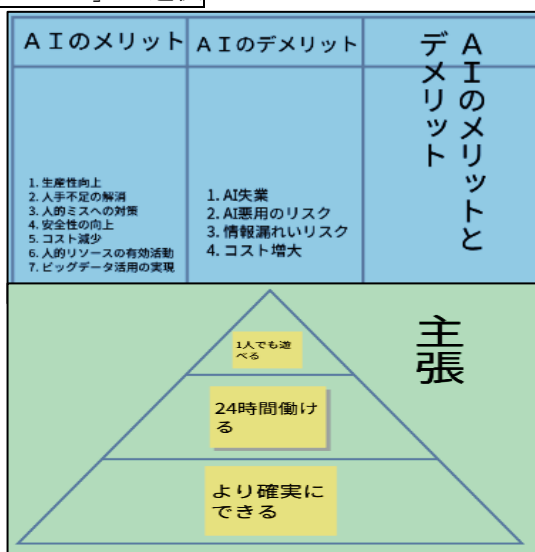
② 実践の様子

まず、手本となるディベートの動画を視聴し、ディベートの進め方やよさを確認した。ディベートの題材について話し合う中で、「個人の好き嫌いがいいテーマがよい」「どちらの立場も平等に考えることができるテーマがよい」などとディベートの特徴を捉えた意見が多く出た。話し合いの結果、「AIとの暮らし」に決まった。

手立て① 自分の考えを明確にするための「思考ツール」の選択

思考ツールを指定せず、どの思考ツールを活用するとよいか、児童たち自身が考えるようにした。

多くの児童は、クラゲチャートやウェビングマップなどの思考ツールを活用したり、構成シートに書き込んだりするなど自分が考えを検討しやすい思考ツールを選択し、自分の考えを明確にしていった。〔資料12〕また、思考ツールに自分の考えや集めた資料が検討できていない児童には、思考ツールと調べた資料を分けて整理するように声を掛けた。その結果、自分の考えをもとに資料を集めることができていた。



〔資料12 思考ツール〕

手立て② 分かりやすく伝えるための「ヒントカード」の活用

朝学習の時間に取り組んでいる話し合いの活動を想起させ、伝え合うために大切だと思うことを話し合った。そして、第1次実践で提示した三つの観点のヒントカードから話し方の一つの観点到絞ったヒントカードを提示した。〔資料13〕ヒントカ

- 話し方
- ・相手の目を見て話す
 - ・話す速さに気を付ける
 - ・聞こえやすい大ききで話す
 - ・ていねいな言葉で話す
 - ・受け止める言葉を言ってから話す
 - ☆考えと資料を区別して話す
 - ☆伝えたいことを整理してから話す
 - ☆結論を言ってから理由を言う
(複数ある時は「〇つあります。1つ目は〜)
 - ☆身振りを入れる
 - ☆問いかける話し方

〔資料13 1つの観点を示されたヒントカード〕



〔資料14 試行錯誤する様子〕

ードを個人のめあてに取り入れたり、ディベートの前にヒントカードを見返したりする姿が見られた。説得力のある主張をするためにジェスチャーを取り入れたり、資料を提示するタイミングを変えたりしてディベートのイメージを膨らませながら、試行錯誤する姿が見られた。

〔資料14〕

手立て③ 「伝える力」の把握・めあての再設定

本番に向けて、別のグループでディベートの練習をし、撮影した。ディベートをしている姿を動画で確認し、友達と助言し合いながら評価チェックシートを活用して自己評価していった。本番のディベートに向けてめあてを再設定する場面では、自己評価で明らかになった課題をめあてに取り入れる児童の様子が多く見られた。〔資料15〕

本番のディベートでは、様々な観点から考えを伝え合ったり、効果的に資料を活用し、説得力のある説明をしたりする様子が見られた。自分の伝えたいことを引き出す質問をさせ、自分の主張を伝える児童の姿も見られた。

意見をし、からし(うしろ)	振り返り⑤				
	1. テーマからそれていなかった。	◎	○	△	×
	2. 感情的にならなかった。	◎	◎	△	×
	3. 立場、主張をつらぬいてけた。	◎	◎	△	×
	4. 伝わりやすい構成で話せた。	◎	○	△	×
	5. 効果的にデータを活用できた。	◎	○	△	×
6. 相手の主張に合った質問や反論ができた。	◎	○	△	×	

資料を見せたり、相手の主張にあてはまる反論を言う

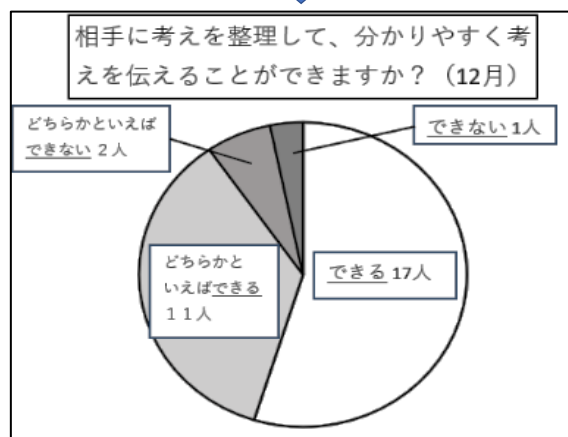
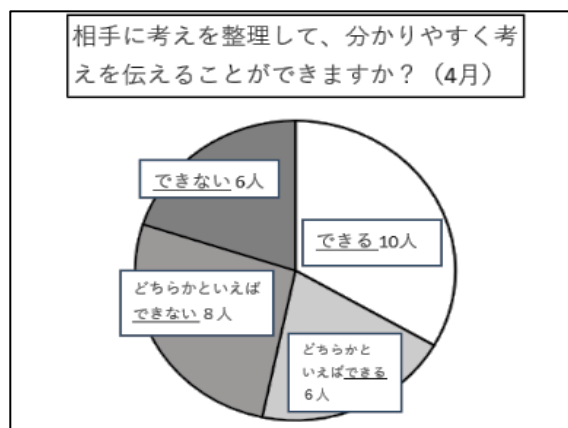
[資料 15 評価チェックシートとめあての変容]

③ 結果と考察 (成果…○、課題…●)

- 自分が考えを検討しやすい思考ツールを選んだことにより、考えを明確にすることができた。
- 伝えたい内容を話すときに、相手に問い掛けたり、ジェスチャーを使ったりして、分かりやすい発表につなげることができた。
- 動画や友達の助言などを参考にして、評価チェックシートで自己評価したことで課題が明らかになり、適切にめあての設定をすることができた。
- 評価◎○△×の評価の規準にばらつきがあったので、規準を明確に示す必要がある。

4 おわりに

12月に4月と同じ内容のアンケートを実施した。すると、「相手に自分の考えを整理して分かりやすく伝えることはできる」と答える児童が10人から17人に増えた。[資料16] また、「相手に伝えるときに気を付けていることはある」と答えた児童も18人から28人に増えた。記述を見ると、「考えを整理してから話すこと」や「相手の目を見て話すこと」など、考えを整理することや表現方法を大切にしていることが分かった。この結果から、多くの児童たちが、考えを整理して、表現方法を考えることにより、「伝える力」を高め、自己評価することで自信をもつことができるようになったといえる。しかし、実践後も自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができないと感じている児童がいる。その理由は、「自信がないから」であった。全員が堂々と「自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができる」と言えるようにするには、評価の規準を明確に示し、発表の良い点に着目し、評価し合える取り組みをする必要がある。



[資料16 アンケートの変容]